

令和 6 年能登半島地震における災害支援薬剤師活動報告 1/25~1/29

※ 写真は別途大きく掲載しております

青森県薬剤師会 常務理事
ワカバ薬局 阿達 昌亮

石川県能登地方を震源とした能登半島地震が元日の夕刻に発生し、新潟県、富山県、石川県、福井県の広い地域が災害救助法の適用を受けた。東北地方太平洋沖地震以来の津波警報が発令され、輪島市の 7 階建てビル倒壊や輪島朝市の大規模火災では 140 名の安否不明が報道され、災害の規模に驚愕するとともに犠牲となった方々のご冥福をお祈りしていたが、最初は自分が現地支援に行くとは考えていなかった。

遠方の青森県から北陸の石川県まで移動して支援するのは現実的ではないし、近隣地域や東京大阪など大都市圏の比較的薬剤師数が多い地域が支援に行くのだろうと思っていた。ところが北海道や九州など全国の薬剤師が支援活動をしていること、多くの被災者が厳しい寒さの中で避難生活を余儀なくされており、長期間にわたる薬剤師の支援を必要としていることを聞いて少しでも役にたつのであればと考え、薬局職員に相談し、支援薬剤師に申請することにした。

被災地支援を日薬に申請してから出発までの間は、情報収集と備品の準備に取り組んだ。支援地域は珠洲市、輪島市、輪島市門前町、穴水町、能登町宇出津のどこかになる。ベースであるらしい羽咋市柴垣の宿泊施設まで戻って来れない場合も考えて、シュラフと携帯用トイレ、ボディーシート、カイロ、携帯非常食などをディパックに詰めた。支援に行った他県の薬剤師からも最新の支援情報を入手してどのように活動するか支援開始までできるだけ整理した。また避難所での環境検査の要請があり、CO2 測定器も持参した。

出発直前の 23 日に停電のため東北・北陸新幹線の一部区間の運転が終日取りやめとなり、どうやって被災地にたどり着くか途方にくれたが、25 日には復旧し無事に金沢へ移動できた。青森県薬剤師会館で行われた出発式に参加できなかったのは残念だったが、鉄道トラブルがあった時に支援先と逆方向の青森市に移動することに違和感を覚えたため断念した。

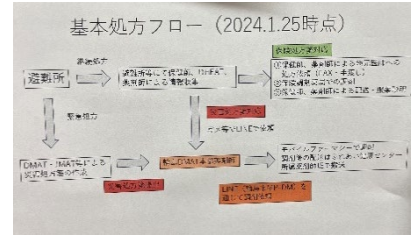
予約されたレンタカーは車高の低い FF 車で荷室も狭いものだったが、これ以外は既に予約済みで軽自動車しか選べない状況だった。支援中は地震で隆起陥没した道路を走行する際に必要以上に神経を使った。

宿泊施設は羽咋市柴垣の「能登青少年交流の家」でここは上下水道が使用できたので、問題なくトイレ使用や入浴することができた。男女分かれて 12 人程度の相部屋で過ごした。一方で珠洲市派遣者は毎日の移動が困難で支援先に留まって宿泊するしかなく、他の地域でも夜間対応のためモバイルファーマシー (MP) に車中泊する場合もあり、支援先によって薬剤師の過ごし方は様々だった。

医療提供を継続させるために災害医療で求められる薬剤師の役割として、
 ① 災害医療救護活動、②避難所への支援、③医薬品等の安定供給が挙げられる。

災害医療救護活動では DMAT や JMAT が避難所を巡回して発行する災害処方せんを MP 等の臨時的調剤場で応需し必要な医薬品を供給するが、使用できる医薬品の種類や在庫量が限定されるため長期処方は困難である。医薬品の発注は随時石川県へお願いするが入庫に時間を要する場合もあるようだった。

一方で被災地のかかりつけ医、かかりつけ薬局の医療活動が再開している場合には、地元の医療機関を活用し避難所で聴き取りした常用薬についてかかりつけ医と連絡をとり、かかりつけ薬局で調剤し保険調剤としてより長期間、普段から使用していた薬剤を交付することができる（図1）。活動中に診療を再開した診療所や保険薬局があり、毎日状況の変化を確認していた。

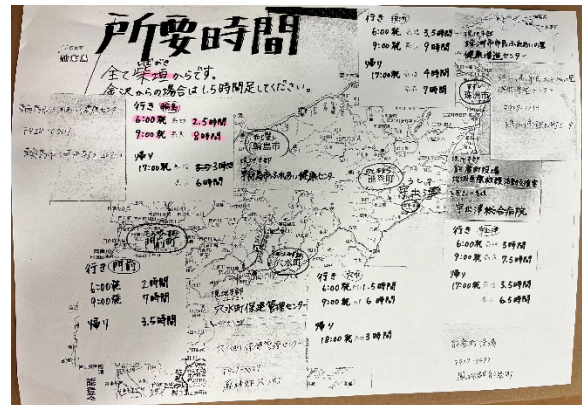


そして、大規模災害時には指定された避難所に多くの被災者が集まるため、支援物資として一般用医薬品が供給される。薬剤師は避難所の一般用医薬品の保管や管理、これらの医薬品で対応可能な被災者へ病状の聞き取りを実施して供給する他、被災者からのお薬や健康に関する相談の応需、長期間集団生活をする中で発生しやすくなる感染症対策のために環境検査や衛生管理など多岐にわたる活動を実施した。

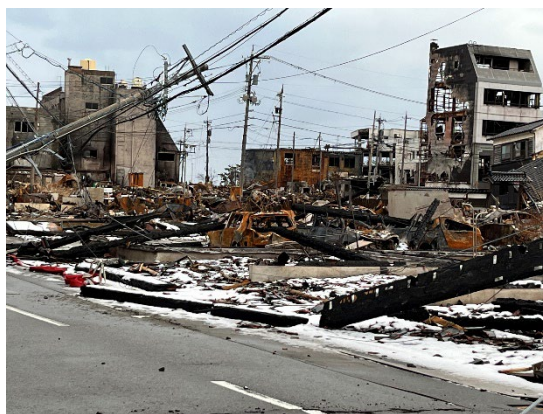
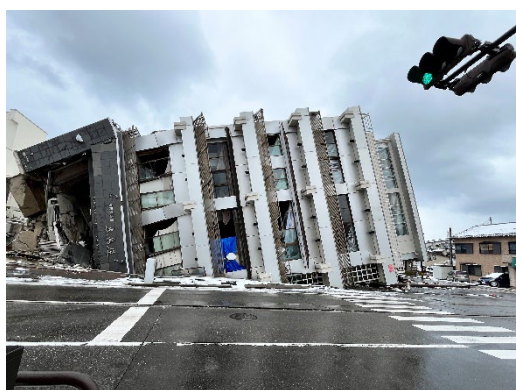
また被災地外から医薬品や医療機器、衛生用品が供給されるが、仕分けや管理が不十分であることが多く、溢れかえる医薬品等の整理をする薬剤師が不足して、そのまま放置されている場合がある（図2）。これらの医薬品や衛生材料等を整理することで多くの軽症患者へ一般用医薬品を供給し、医療班の負担を軽減することも可能であるため、専門職としてより多くの薬剤師支援が必要となるのではないかと思います。



青森県薬剤師会第1班は白滝会長、木皮美賀先生と私の3人で東京、佐賀、山梨MP（図3）と輪島市へ派遣され、毎朝5時過ぎに宿泊施設を出発し、約65kmを3時間程度かけて分断された道路を迂回しながら海沿いの一本道を北上し活動していた。（図4）



薬剤師詰所のある避難所から徒歩圏内に、倒壊した7階建てビルや輪島朝市があり、報道で見た場所を実際に見る衝撃は大きく、知らず知らずに涙がこぼれた。(図5、6)



道路の両側の家屋が倒壊して自動車が通行できない場所も多く、カーナビは頼りにならず毎日の支援で避難所までの経路選択に慣れてきた頃には帰らなければならなかった。(図7)

常用薬の残りが少なくなった被災者への医薬品の供給を行いながら、避難所を巡回し、お薬や健康の相談、環境検査を実施した。長い避難所生活でお腹の調子が悪くなっている被災者に一般用医薬品をお渡しして様子を見るように説明した。

また避難所以外のビニールハウスや市中の滞在先等を巡回し積極的に相談を受けるようにした。朝食と昼食は冷たいおにぎりやサンドイッチなどを車内で摂っていたので、夕食に温かいものを食べるようにして自身の健康管理に努めた。



今回の能登半島地震の支援を通して、薬局外での薬剤師の活動や公益性の高い災害支援活動について考えを整理することができた。特に刻々と変化していく様々な情報の整理と共有が継続的な支援活動に大切であることを感じる。

いつか青森県でも災害が起こるかもしれない。その時は他県からの応援に頼らざるをえない状況になるかもしれない。支援はお互い様であり共助することだと思う。青森に戻ってからは後方支援をすることになると思うができるだけのことはいたい。

最後に青森に残って薬局業務や薬剤師会業務を続けてくれて、私の派遣に協力してくれた薬局職員と八戸薬剤師会に感謝したい。支援に行かなくても少ない人員で残って業務を続けることも被災地支援なのだと思う。長期間にわたり厳しい非難生活を続けている被災者に適切な医療を提供するために薬剤師が必要であること、地域で少しでも支援薬剤師の派遣に協力することができると良いと思う。

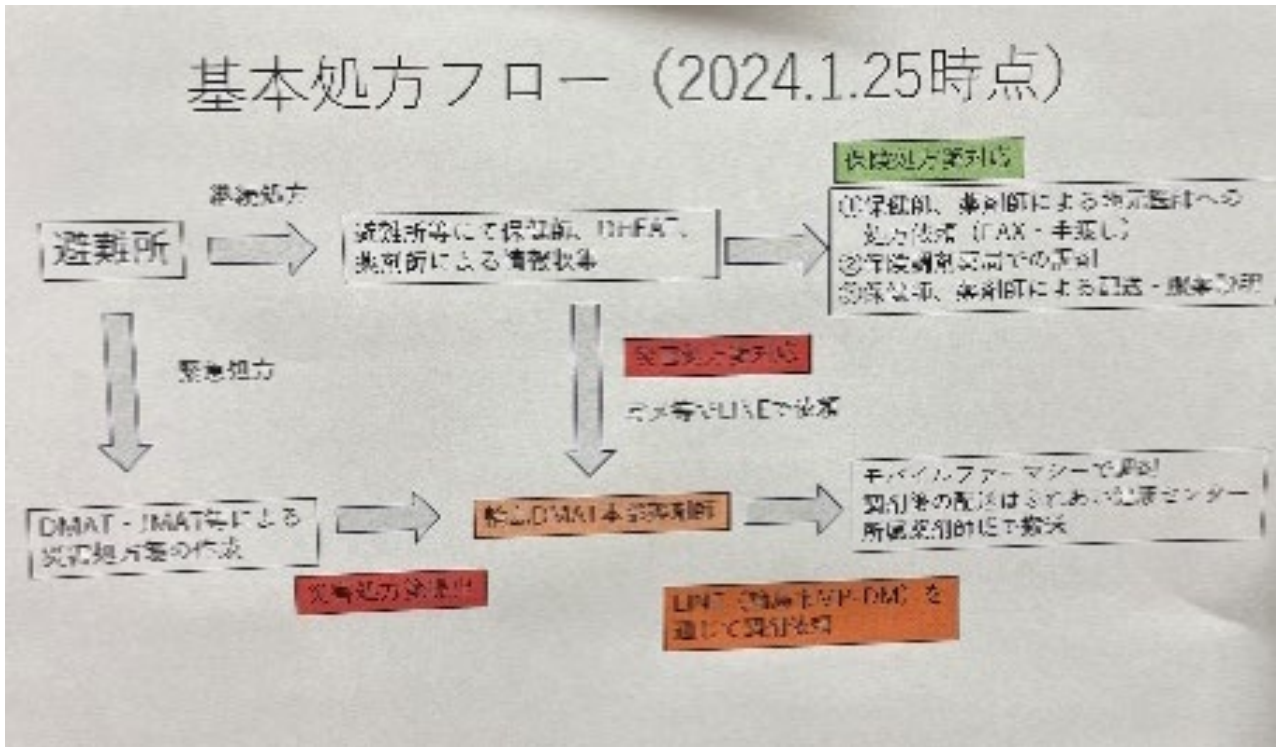


図 1
(1/25時点の基本処方フロー)



図 2
(様々な支援物資)



図 3
(山梨県薬のモバイルファーマシー(MP))



図 4
(宿泊施設 (羽咋市柴垣) からの所要時間)

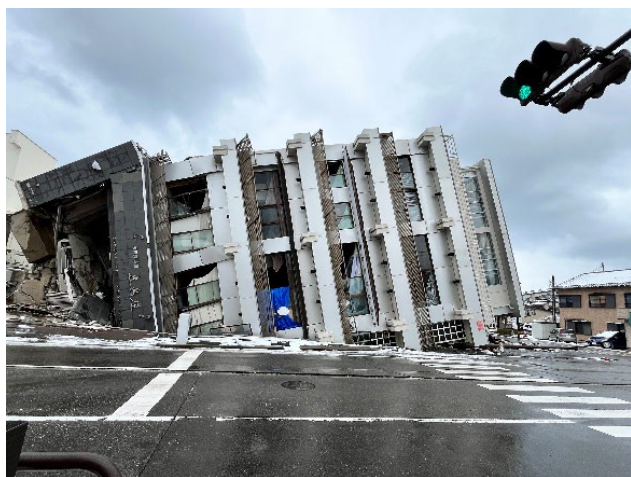


図 5
(倒壊した7階建てビル)



図 6
(輪島朝市)



図 7
(倒壊した家屋)

1/26 金曜日 5:40 出発 気温 2°C

★輪島班：東京、佐賀、青森、山梨 MP（モバイルファーマシー）

- 5:40 羽咋市 国立能登青少年交流の家→コンビニ
- 7:00 穴水町 この辺りから渋滞始まる
- 7:30 穴水総合病院(トイレ休憩)
- 8:38 輪島ふれあい健康センター（薬剤師詰所あり）
- 9:00 医療ミーティング
- 9:30～11:30 災害処方箋と保険適用の処方箋の配達、服薬指導
 - ① 確認書(必要な薬の内容を書いているもの)を薬剤師会の詰所に持ってくるので、それを医療機関に薬剤師が fax をする。
 - ② それを見たかかりつけ医が処方箋発行して、その処方箋を、かかりつけ薬局に fax する。
 - ③ その薬局に私たちが薬を取りに行き、服薬指導をする。またはタブレットを使い、かかりつけ薬局の薬剤師が、オンライン服薬指導をする
- ・処方箋 2枚対応。避難所とご自宅に配達
- 11:30～12:30 避難所1ヶ所訪問 38名
 - ・CO2測定とお薬相談、健康相談
- 12:30～13:15 昼食
- 13:15～14:00 避難所訪問
- 14:00～14:20 輪島班のみで情報交換
- 14:20～16:00 避難所訪問 2ヶ所。38名・141名
 - (今後は避難所のOTCを管理する人がいるのかをデータを収集したい)
- 16:00 輪島出発→コンビニ(翌日の朝・昼食を購入)
- 19:00 羽咋市に到着
- 19:00～20:00 夕食
- 21:00 班長ミーティング

1/27 土曜日 5:45 出発 気温 2℃

★輪島班：東京、佐賀、青森、山梨 MP（モバイルファーマシー）

● 5:45 羽咋市 国立能登青少年交流の家

● 6:55 穴水総合病院(トイレ休憩)

● 7:51 輪島ふれあい健康センター

● 9:00 ミーティング

● 9:40～12:10 避難所 2 件 CO2 検査、OTC 確認

● 12:30～13:30 昼食

● 13:30～16:00 避難所 7 件 CO2 検査、OTC 確認

・医療班からは、薬剤師に OTC の管理状況の確認をして欲しいと要望あり。

・ACT からは、避難所巡回の際にトイレの件で困っていることがあったら教えて欲しいと要望あり。

● 16:20 輪島出発→コンビニ（翌日の朝・昼食を購入）

● 19:00 羽咋市到着

● 19:00～20:20 夕食

● 21:00 班長ミーティング

【伝達事項】

東京都薬剤師会で輪島市の DMAT 本部に常駐してます鈴木です。

輪島市の DMAT 本部では現在 OTC 管理の徹底が求められており、各個人に配布というよりは、避難所の管理者のもとでどうやったら OTC 管理が行えるかという方向で進んでいます。

もし、輪島市で新しい動きがございましたら、DMAT 本部の薬剤師と相談のもと進めて頂きますと有り難いです。

1/28 日曜日 5:40 出発 気温 2℃

★輪島班：東京第6班、7班、佐賀、青森、山梨MP

- 5:40 羽咋市 国立能登青少年交流の家
- 6:20 中島ロマン峠 道の駅(トイレ休憩)
- 6:40 穴水総合病院(トイレ休憩)
- 7:48 輪島ふれあい健康センター
- 9:00 ミーティング
- 9:30～10:30 東京第7班同行
 - ・市役所で常備薬確認書原本の受け取り
- 11:25～12:50 東京第7班同行 避難所1件 1～3F(132名) CO2検査、OTC確認
- 13:00～13:40 昼食
- 13:40～16:00 東京第7班同行 避難所4件 CO2検査、OTC確認
- 16:10 輪島出発
- 18:45 羽咋市到着
- 18:45～20:15 夕食
- 21:00 班長ミーティング

今後、輪島ふれあい健康センターのJMATは撤退

輪島市役所2F、DMAT本部の薬剤師は、東京都薬剤師会が入ることとなった